

こんにちは、ゆうがおピア部です。

今回は【 小山富士見台病院でのピア活動 】について、ご紹介します☆

(ピアサポーターとは、経験を活かして同じ境遇にある仲間をサポートする人です)

☆ 12/12(金)に小山富士見台病院で行われている退院支援プログラム「けやきの会」にて、はばたきのピアサポーターさんと共に活動を行いました。

→小山富士見台病院のテイケアさんです。

◎退院支援プログラム「けやきの会」とは・・・

長期入院をされている患者様に対して、安心して退院できるよう社会資源や対人関係、病気との付き合い方について学ぶ(再確認する)プログラムです。

週2回(水・金)、座学と実践を実施しています。(1クール12回/2か月)

退院支援プログラム「けやきの会」 活動報告

<参加者>

- ・入院患者様 6名
- ・ピアサポーター 4名(はばたき 2名、ゆうがお 2名)
- ・県南健康福祉センター職員 2名
- ・職員 4名(小山富士見台病院作業療法士 2名、はばたき 1名、ゆうがお 1名)
- ・実習生 1名

<活動内容>

① リカバリーストーリーの発表

→ピアサポーター4名が発表しました。リカバリーストーリーを文章化して資料として配布したため、皆さんに伝わりやすかったのではないかと思います。

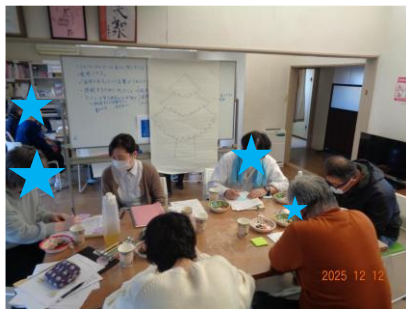
② グループワーク

→2グループに分かれて“退院後に活かせるストレングス(強み)を見つけ”を行いました。患者様からリカバリーストーリーの感想を聞いたり、患者様の入院経過を聞いたりしながら、それぞれのストレングス探しをしました。ストレングスは付箋に書き出し、模造紙に書かれたストレングスツリーに貼り、皆で共有しました。



↑ ストレングスツリー

<活動の様子>



← リカバリーストーリーをもとに、ピアサポーターのストレングスを発表後、患者様のストレングスについて意見交換をしました。

<参加した感想>



患者さんが積極的に色々話してくれたので、とても参考になりました。また話の中で自分と共通する部分があったので、とても感銘を受けました。患者さんの“退院したい”という思いが、痛いほど伝わってくるグループワークでした。またこのような機会があれば参加したいです。

入院患者さんがとても積極的に意見を出してくれて、驚きました。また“退院したい”という強い意志を感じました。自分もストレングスを見つけることができ、また参加したいなと思いました。



☆今回病院の中に入り、直接入院患者様と交流できたことはとても勉強になりましたし、充実した時間を過ごすことができました。今後も様々な活動に取り組みながら、自分たちのできることを模索していきたいです。
ありがとうございました!!

～*～*～ 質問・お悩み相談コーナー ～*～*～

みなさんの質問やお悩みに、私たちがお答えします!!

Q. 皆さんのストレングスを教えてください。

【キング】①ネバーキブアップ ②好きなことを継続して行っている

【クイーン】①薬を自己管理している ②字がきれい ③オセロが強い

【トンガリ】①聞き上手 ②仲間思い ③相手の気持ちを想像することができる



最後まで読んでいただき、
ありがとうございました。

次回の発行をお楽しみに☆

(5月発行予定です♪)

<お問い合わせ先>

〒329-0511

下野市石橋950-2

地域活動支援センターゆうがお

TEL: 0285-53-4621